



オープンファクトリー CRASSO 2024 を終えて

「CRASSO (クラッソ)」は、普段見ることのできない「ものづくりの現場」を巡るオープンファクトリーイベントです。今回は同友会参加企業から選出してCRASSO 2024 (春・秋開催) を終えての感想を頂きました。

【榎原工業株】

CRASSOが始まった当初は「自社だけでは弱い発信力をみんなで補い、自社を知ってもらう取り組み」として参加しました。しかし、今では「会社をよくするための絶好の機会」であると実感しています。初回から参加していますが、回を重ねるごとに社内に変化が起っています。

まず、私たちが普段行っている仕事をお客様に直接見ていただくことで、社員一人ひとりが自分の役割やスキルに対して新たな自信を持つようになりました。日常の業務に追われていると、自分の仕事の価値を改めて考える時間はなかなかありません。しかし、CRASSOでは来場者が興味深そうに縫製しているところを見て、「こんな細かい作業があるなんて知らなかった」「この技術で作られているなら安心して履けます」といった声をかけてくださることで、仕事への誇りややりがい再確認

するきっかけになっています。また、一度来場されたお客様でも楽しめるようにと、CRASSOの開催に向けて試行錯誤を重ねてきました。見学ルートや各工程の説明内容の工夫だけでなく、縫製の魅力や難しさをどのように体感してもらおうかを社員全員で考えることで、準備の段階からチームワークが深まりました。特に、「どの部分をもっと魅力的に伝えられるか」「お客様目線で改善できる点は何か」という意識を持ち、案を出し合い実行を繰り返していく中で、社員の自主性が大きく向上したと感じています。

さらに、お客様からのフィードバックがあるので、「ここが良かった」「こんな部分も見たかった」という意見を基に、良い点はさらに磨きをかけ、改善点には迅速に対応することで、回を重ねるごとに工場全体が進化しています。

初回のCRASSOと第4回が終わった現在を比較すると、



社内の雰囲気や取り組み方が大きく変わったと実感しています。これまで榎原工業に來たことがある方も、再度訪れていただければ、その進化を感じていただけるはずです。

こうした活動を通じて、社員のモチベーション向上だけ

でなく、榎原工業という会社そのものの魅力がさらに強化されていると感じます。CRASSOは単なる工場見学イベントにとどまらず、社員が一丸となって挑戦し、成長する場として、会社をよくするための重要な取り組みとなっています。

今後もこの活動を継続し、さらなる進化を遂げながら、より多くの方々に榎原工業の価値を伝えられるよう努力していきたいと思えます。

榎原工業(株)

代表取締役

榎原 拓史／記

(高松第9支部)

【株グッドワーク】

(株)グッドワークでは2023年の秋から2024年春、秋と3回、CRASSOに出展してきました。初めはよくわからないまま出展しており、従業員にもCRASSOの趣旨を上手く伝えられずに、とりあえず参加していました。

そんな中でもCRASSOに参加して良かった点としては、私や従業員の意識変化だと思います。普段当たり前だと思っていた仕事、作業が一般の見学者にとっては特別なものであるという事を気づかせてもらえました。これによって仕事に対する価値観や自信に繋がりました。特に工場内の従業員はお客様からの直接の反応を受けることがなかったの、CRASSOでは一般の方々の反応はとても新鮮で普段では体験できないものになって仕事に対するモチベーションアップにも繋がったという感想もありました。

次に一般の人たちにもっと「ものづくり」を知ってもらいたいという意識が高まりました。そのことにより今年の夏休みでは、地元の小学校に「工場見学ツアー」のチラシを配布し、5組12人の親子づれが見学に来てくれました。その他にも高松市の児童クラブの子供たち20人、幼稚園児45人



など工場見学ツアーを開催することに繋がりました。その経験を活かし、工場内の整理整頓はもちろん安全確保など、今まで意識しなかった事にも取り組めました。

CRASSOの出展者同士の横の繋がりができ、今まではな

【江本手袋株】

んとなく知っているような関係性だったのが、これを機にお互いを良く知ることができました。この関係性がより深まり、広がることでお互いの強みを活かした商品開発などにもつながるのではないかと期待もあります。そうなればもっとCRASSOに参加してくれる事業者が増えるのではないかと思います。

地域の方々や子供たちに会社の事、ものづくりを知ってもらう事も重要であります

が、社内の意識改革にも役立てられたのは非常に大きい事だと思えます。今も社内では次のCRASSOではどういった内容にしようかなど検討しています、そこでも様々な意見交換からの新たなコミュニケーションが生まれており、社内の活性化の一助になっていきます。

(株)グッドワーク

代表取締役

平井 陽介／記

(三木支部)

江本手袋株はオープンファクトリーイベントCRASSOに初回から参加させていただいて今回は4回目になります。来場者もだんだんと増えて今回は100人を超える方々に江本手袋に来ていただきました。

今回は、県外からの方も多く、仙台、高知、愛知、奈良、大阪、岡山などから香川のオープンファクトリーをどうやってやっているのか視察に来られる方がたくさんいました。またCRASSOに参加されている会社の社員の方にも来ていただけました。

それから今回初めて土曜日、日曜日に開催しましたので、お子さん連れで来られる方や、今まで来たことなかった友達や知り合いもたくさん来てくれました。

受け入れの方法ですが、狭い会社でたくさんの人数を受け入れするために、来られた方をまず半分に分けて、半分



の方は事務所でスライドを使って話を聞いてもらう。その間、半分は先に工場見学と体験してもらおう。20分で入れ替わるという方法を取りました。

私の話の方では「なぜ東かがわで手袋なのか?」といっ

たクイズから始まって、江本手袋の取り組み、「手袋職人の聖地をつくる」というビジョンを聞いてもらいました。そしてそれぞれの地域の課題や業界の課題、同じような悩みや課題を話し合いました。共にがんばろうと勇気をもたらえました。

帰りにシヨップの方でたくさん手袋を買っていただいたのですが、それはビジョンに共感し、東かがわを好きになってくれて、「手袋職人の聖地をつくる」のを応援してくれる仲間になってくれていたからだと思っています。

工房の見学の方は、私は一日中事務所じゃべっているものですから、職人たちに任せっきりでいましたら、自分で説明の仕方や体験の仕方を考えてやっていて、より楽しんでもらうには?と考え、今回は残った生地のリボンをお客様に色を選んでもらい、ミシンの体験をしてもらってからリボンを持ち帰っても

らうというアトラクションができていて、びっくりしました。

江本手袋の事業ドメインは「喜び合いエンタメ業」なのでどうやったらお客様は喜んでくれるかを社員が自主的に考えてきていて、すごく良い取り組みになっています。

江本手袋(株)

代表取締役

江本昌弘／記

(東讚支部)

【株式会社タナベ刺繍】

(株)タナベ刺繍はオープンファクトリーイベントCRASSOに初回から参加してきましたが、第4回に参加してこの取り組みは自社の魅力を地域に知ってもらうと同時に、社員が成長する貴重な機会になると改めて感じました。

CRASSOを通して、多くのお客様が工場見学や体験コーナーに足を運んでくださり、普段は目に触れることのない

刺繍の工程や、製品への想いを一人ひとりの社員が直接伝えることができるようになりました。特に、子供たちが楽しそうに刺繍体験に取り組み姿や、お客様が製品の細部にまで目を光らせている様子は、社員たちの自信とやりがいになっています。

私自身はメイン会場の運営だったので、タナベ刺繍の4日間は全て社員に任せていましたので、開催後の社員アンケートでやっとな状況を把握できました。

準備段階では、それぞれの役割分担や来場者の動線と対応方法など、様々な課題に直面しましたが、社員一丸となって取り組むことで、無事にイベントを開催することができました。また、イベントを通して、社員一人ひとりの意識も高まり、より一層お客様に喜んでいただけるように改善していこうという機運が高まっています。

お客様からは、製品の品質

の高さや、丁寧な手仕事への感嘆の声が多く聞かれました。また、クイズコーナーや体験コーナーも好評で、多くの方々に楽しんでいただけたようです。一方で、説明が長すぎる、商品ラインナップが限られているなどのご意見も

いただきました。これらのご意見を全社的に共有して、改善に繋げていきたいと思えます。

今回のイベントで得られた学びと成果は、今後の事業展開に大きな意味を持つと考えられています。例えば、お客様からの声を参考に、より魅力的な商品開発を進めることや工場見学のコースを充実させることなどが考えられます。

また、地域との連携を深め、地域に根差した企業として発展していくことも重要な課題です。

今後も地域を代表するコンテンツになれるよう、社員と一緒に取り組みます。

(株)タナベ刺繍

代表取締役

田部智章／記

(東讚支部)



CRASSO 2024 まとめ

「イベント」から「コミュニティ」へ
～シンカするCRASSO～

CRASSO 実行委員会／事務局長

タナカ印刷(株)／代表取締役 **田中英城氏**
(東讃支部)

今回の開催で4回目となるCRASSOは11月28日(木)から12月1日(日)まで、初めての日曜日開催を含め4日間、これまでの開催地(東かがわ市、さぬき市、三木町、高松市)に小豆島(土庄町、小豆島町)を加え、出展企業も過去最大の35社で開催しました。会期中は延べ5000名を超える方が四国にとどまらず、関西や関東からもご来場いただきました。

2023年の最初の開催から比較すると、CRASSOを上手く活用する企業が増えてきたことを実感します。自分たちの仕事ぶりを一般の方に見せることで、自社のPRや新たなファンの獲得に結びつけることもそうですが、「社員の育成のため」と割り切って参加される企業も現れました。実際にその企業を訪問してみると、普段はお客様と接することのない事務系の職種の方が自分たちの会社のことをクイズや体験を交えて、まさにエンターテインメントとして楽しそうに、そして誇らしげに語る姿には感銘を受けました。

初の出展にも関わらず、積極的な情報発信で多くの来場者を集める企業が出てくる一方で、これまで出展していた企業がなかなか来場者を集められないという課題も出てきました。



この課題を打破するために必要なことが出展企業間の連携だと考えています。出展企業間で経営者だけでなく、社員同士がお互いの会社を訪問し、交流する。お互いの会社のことをよく知ることで、それぞれの強みを活かした商品開発や合同でのワークショップの開催に繋がっていき、新たな来場者の獲得だけでなく、自社を変革できるようなイノベーションが生まれる関係づくりができると考えています。

まさにCRASSOが単なるイベントから、出展企業同士や来場者との「コミュニティ」へと進化、深化、「シン・」化して、新たな価値を生み出す「共創」を実現する場となっていきたいと考えています。また、それを後押しするかのよう複数の大企業とも連携することが決定しています。

2025年は大阪・関西万博が開催され、香川県でも瀬戸内国際芸術祭が開催されます。CRASSOはどちらのイベントとも連携し、PRする機会をいただいております。国内、海外から多くの方に注目されるまたとない機会にCRASSOを活用して、自社の魅力、地域の魅力を発信してみませんか？ 皆様のご参加お待ちしております！！

